



十一月 祭典講話 要旨

本日もご参拝くださりありがとうございます。ございました。

私たちは、皆、親神様の子供であり、お互いは兄弟であります。

その兄弟が互いに扶け合って陽気に暮らすのを見て、親神様も共に楽しみたいとの思召から、この世人間をお創め下さったのであります。ですから、みんなが、陽気ぐらしを味わえる世の中にしなければならぬのであります。

それには、まず教えを信じる私たちが、家族や教会や身近な地域社会での扶け合いを実行することにあります。

そこから、着実に一れつ兄弟の喜びの輪が広がっていくと思っております。

発行所
天理教祝梅分教会
千歳市祝梅 598
☎0123-29-2055
復刊第 56 号

お互いに相手を立て、相手を生かし、扶け合っていくというのが人間として最も基本的な生き方と言えるのであります。

親神様によって生かされていることのありがたさ、かしまの・かりものの尊さ、もったいなさを知るところに、陽気ぐらしの根本があるのであります。

私は、最近になって、逸話篇や教祖伝での教祖の表情はどうだったのかを想像しています。

「水を飲めば水の味がする。親神様が結構にお与え下されてある。きつと穏やかな表情でお話してくださったかと想像します。」

教祖は、文久、元治の頃から始まった近在の神職、僧侶、山伏、医者など外部からの反対攻撃には、“ほこりはよけてとおれ”と、穏やかに対処しておられるのですが、異端・異説（内からの反対攻撃）に対しては、とても厳しい態度で臨んでおられます。

おつとめをせよとおっしゃったのも厳しい態度ではなかったかと思えます。

ふと、こかんが、行かなんたら宣ったのに。と、呟やいた処、忽ち教祖の様子改まり、「不足言つのではない。後々の話の台である程に。」と、お言葉があった。

様子改まりというので、日頃から優しい態度であったと想像します。

普段は優しい態度の教祖に、お喜びいただけるようにつとめていきたいと思えます。

ご連絡

12月31日(木)16時より 夕づとめ

1月1日(金)9時より 元旦祭

祭文奏上、座りづとめ、よろづよ八首総立ち

1月10日(日)10時より 春季大祭

3月10日(水)の月次祭に大教会長様をご参拝になります。

1月10日(日) 冬のお楽しみ会

「いんねんの自覚から」
昭和三十五年『梅香』より

天理教教典には「思いもよらぬ身上を病んで苦しむのも、予期せぬ事情に泣くのも、すべては過去において蒔いた種子が芽生えてくるからである。これをいんねんと教えらるる」と仰せられています。

誠「その通りであって、この世はいんねんのままに、天の親神様が公平に支配くださる世界ではありません。」

と「ところが私たちは、目に見えない姿はよく分かるのですが、目に見えない世界、即ち心の姿はなかなか見分けられないのです。」

例えば、朝顔の種子を蒔けば、必ず朝顔のつるが芽生え、朝顔の花が咲くのであります。しかも白の花の咲く朝顔の種子を蒔けば必ず白の花が咲くのであって、決して赤の花は咲かないのであります。

この事は誰も疑うものはありま

せん。ところが目に見えない心の問題になると、さっぱりわからなくなってしまうのであります。

例えば、「チンピラ」の子供を持って泣いていらっやる奥様によく出会う事がありますが、その奥様にいんねんの話をして「かかる子供さんが出来てくるのも、蒔いた種子通りに、神様が平等に、誠に公平に守護くださる姿であって、少しも不思議でもありません。」

そのことがあなた様にお悟り頂けなければ、いんねんの自覚はできていないのです。「とよく申し上げるのであります。殆どの方は、その悟りがなかなかつかないでありまして、かえって不足をならべて「私はそんな子供の出来るような道を通っていません。私も主人も今日まで人から後ろ指をさされるような行いは決して致しておりません。主人は立派な人格者で、しかも教育者です。私もまた、町の婦人会の会長もいたしまして、人様のためになる道は今日までつとめて参りました。が「チンピラ」の子供の出来るような種子は決して今までに蒔いた覚

えはございません」とよく申されるのであります。

その言葉は、殆ど自分たちの行動目に見える人の行為について申していられるのであります。目に見えない心遣いにいつてはふられていられないのであります。

ところが蒔いた種子とは、行為のみを申すのではなくて、目に見えない私たちの心遣いを申しているのであります。

即ち親神様は「難儀するの不自由するのも心から」「やまいのものは心から」と仰せられているのでありまして、決して行いからとは申されていないのであります。

教育者としての行為は、婦人会長としての行為は立派であっても、その日々使う心遣いは、必ずしも立派とは申せない場合が実際多いのではないかと思うのであります。

例えば、主人が女道楽のために夜遅く帰られたといたします。奥様は

また今夜も女道楽のために心は怒りに狂うほどでも、教養あり、地位のある婦人会長さんは怒りをこらえ、言葉は優しく「お帰り遊ばせませ」とお迎えする事は出来るのであります。その行為は立派であり、さすが教育者の奥様だけあって、なかなかできない行為である。と、世の人々は、貞淑なる奥様として、むしろ誉め称えるのであります。ところが、しかし、本教の信心の道から申すならば、決して立派な行為ではなくて、夫を怒り憤るその心は、やがて積もの重なって、恐ろしいいんねんの種子となって、又いつかは芽生えてくるものであります。

即ち「ちんぴら」の子供は、いつとは知らずに日々にまいた種子、即ちその心遣いの結果なのであります。

しかも、私たちは今世だけではありません。前生から使って参りました心遣いに至っては、これはおそろしく数え切れない数々の恐ろしい種子を蒔いて参りましたと申しても、決して過言ではないと思うのであ

ります。

かく考えて参りますとい、いかなる
身上も事情も決して不思議な事柄
でもなければ、又なんでこうした難
儀苦勞をせなければならぬのか
という考えは、少しも起らない筈
であって、すべて成ってきた理は私
に丁度良い姿であると悟らねばな
らないのであります。

かく悟る事が出来た時、初めて
「いんねんの自覚」が出来たと申す
のであります。

この「いんねんの自覚」が出来た
時、はじめて私たちはじんな道も、
これで丁度良い「守護」であると喜
べ、どんな「だんのう」も出来るの
であります。

「いんねんなら通りにはならぬ。通
って果たぬにはならぬ」とい言お言
葉もあります。嫌でもどつども時に
た種子は芽生えてくるのでありま
す。これが天然自然の道であります。

しかもその種子は、自ら刈り取る以

外には、誰もどつどもしてはくれない
のであります。

しかるにやれれば、その自ら
が刈り取ること、即ちいんねん果た
しの道、納生の道を少しも歩まずに
ただ祈ること、神様をお願いするこ
とによってのみ助けを求めようと
する人が多いのであります。また、
そうすることが信心の道だとさえ
考えている人々もあるのでありま
す。

本教の信心はかかるものでは
ありません。「いんねんの自覚」がつ
いたなら、喜び勇んでその「いんね
ん果たし」の日々を通ることが何よ
り大切であり、その「いんねん果た
し」の通り方が、即ち信心の道であ
ると考えるのであります。

実に私たちの信心は「いんねんの
自覚」にはじまり「いんねん果たし」
の生涯で終わらなければならぬ
ものといっています。

ペットボトルキャップを 今後も集めます！



昨年は、ペットボトルキャップを教会にお
寄せいただきありがとうございました。
来年も千歳市に集めたペットボトルキャッ
プを寄贈していきますのでご協力をお願
い致します。



会長さんが寄稿しています

『踏まれても』

○先日、降る雪を窓越に眺めていたら、踏まれてもついていきます下駄の雪、という古い川柳を俄かに思い出し、思わず私は考えた。

○春浅き寒風の中を、農夫は強い麦を育てるために幼い麦の根踏みをする。この道理と人間は同じようだ。

誰でも長い一生の内には幾度なく病気や事情、怪我、災難に遭遇する。

だが、これらの難は災いではなく実は、強く正しい人間に育てたい

○神の試練踏みではなからうか。

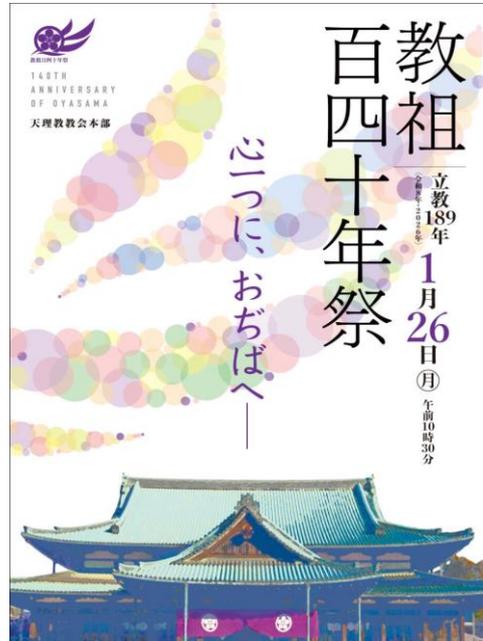
○だとしたら、踏まれても弱音を吐かず神の慈悲についていきたい。息一筋の神の守護が何よりも頼りである。



教祖
百四十年祭

立教189年
1月26日(月) 午前10時30分

ごっくに、おぢばへ



12月8日、23時15分の北海道・三陸沖後発地震で祝梅分教会は震度5弱でしたが、大きな被害も確認されませんでした。ご心配をお掛けしました。今後の余震に備えます。

あとがき

「いんねんの自覚」は、信仰の道を通る上で欠かせない教えだと思えますが、ともすれば、自分を責める事のように感じたり、人を責めたり、人から責められたりする様に感じたりして、私自身もなかなか「いんねん」に向き合えないと感じてしまっています。

そんな私でも、以前、八方塞がりでも困り果てた時、自分の「いんねん」に気づけた事で、心が晴れ「いんねんを果たし」の心が定まった出来事がありました。そして、実行して行く中に不思議な御守護を戴いてきました。

「いんねんの自覚」は自分も人も責める事ではありません。ただ、気づけたら良いのです。

親神様が「気づいてくれたか」とお喜びくださる。そして、「いんねん果たし」の道中に親神様の倍の力をお見せくださる。そんな親心を感じながら信仰の道を通らせていただきたいと思います。